

# 平成28年3月定例会

平成28年度予算	2～3
主な新規事業	4～5
わが町の予算主なやりとり	6～7
決まった主なこと	8
一般質問	9～12
ひかりえん紹介	13
委員会報告	14～15
あれから・編集後記	16

抹茶、おいしいね！



ひかりえん園児

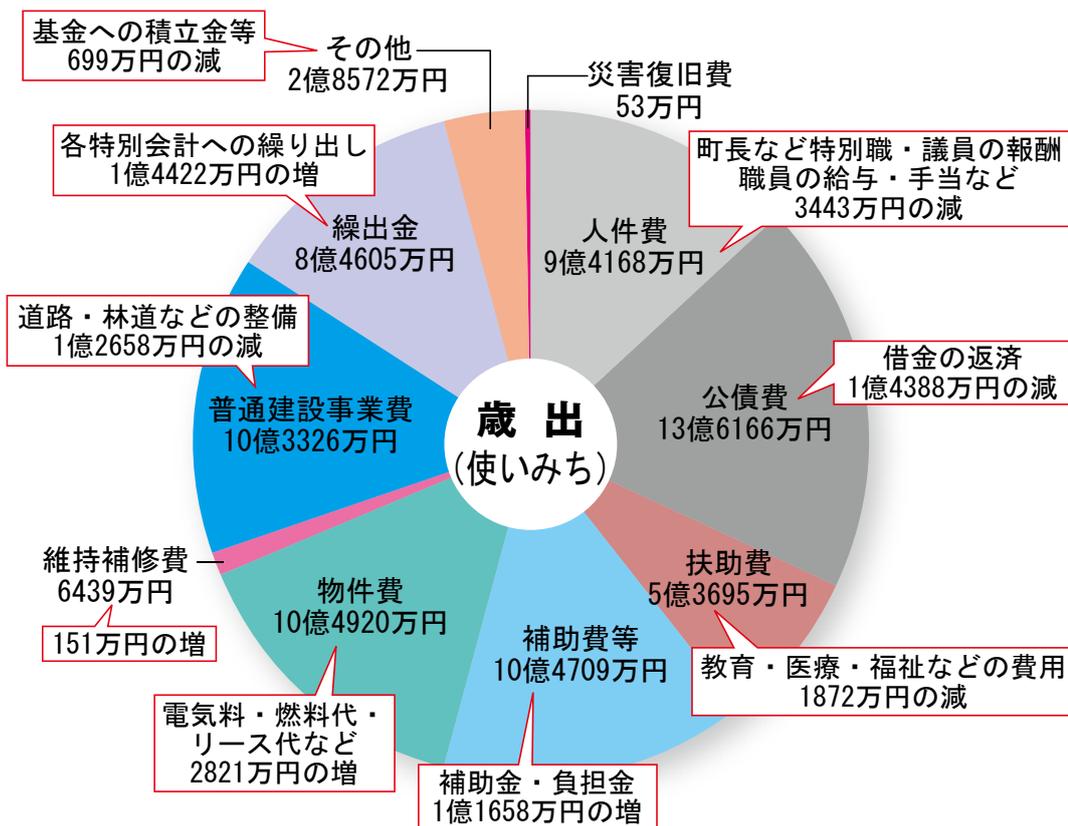
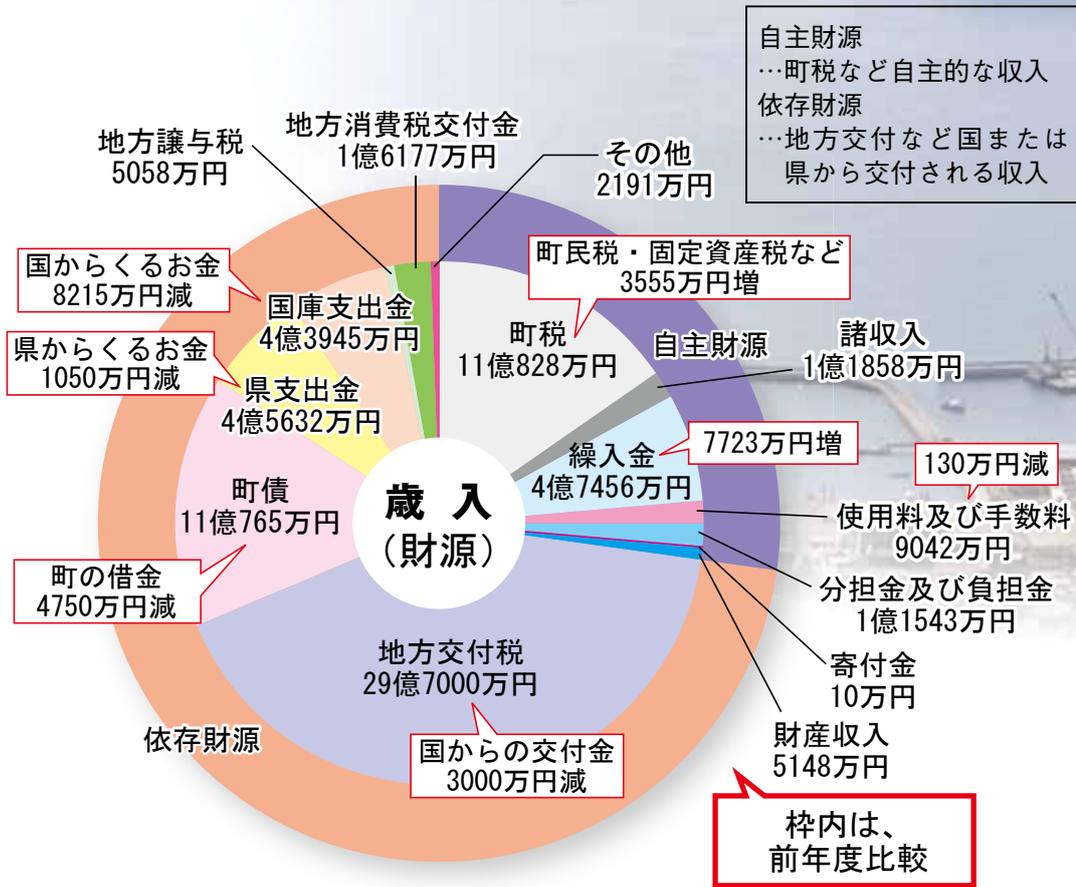
おおさきかみじま  
議会だより

第52号/2016年5月6日

# 予算を可決

110億1572万円  
11億765万円

平成28年第1回大崎上島町議会定例会は、3月3日から3月16日の会期で開会した。町長の施政方針に始まり、4名の議員の一般質問、条例改正を含む議案等、3月補正予算、新年度一般会計及び特別会計予算を審議し、全ての案件を可決した。



第1回定例会  
(3月議会)

# 平成28年度

予算総額(一般会計+特別会計)  
今年度の町債(借金)

## 平成28年度一般会計予算 71億6653万円

対前年比  
0.6%  
減額

### 会計別予算総括表

会計名	予算額	前年度比 %
一般会計	71億6653万円	△0.6
国民健康保険	14億 269万円	△3.2
介護保険	14億5695万円	△3.6
後期高齢者医療保険	1億8183万円	7.5
簡易水道事業	4億4209万円	7.3
公共下水道事業	1億5502万円	20.2
農業集落排水事業	4463万円	14.5
漁業集落排水事業	5758万円	△10.3
港湾管理	1638万円	16.3
漁港管理	355万円	△3.3
交通事業	7876万円	△1.6
干拓地管理	971万円	11.4
特別会計合計	38億4919万円	△0.8
合計	110億1572万円	△0.6

#### 〔町長施政方針より抜粋〕

##### 今年度の主要事業

- 一 多様な人材を育てる教育の島づくりを進めるまちづくり
- 二 新たな人の流れで住んでよかったと実感できるまちづくり
- 三 地域資源を生かして仕事と産業を育てるまちづくり
- 四 癒しと元気な地域で安心して暮らすまちづくり

# 新規事業



## 地域課題解決事業

### ★ものづくりブランド形成・人材マッチン

#### グ事業

地域の企業に埋もれている様々な資源の情報をまとめ、外へ情報発信し、地域の企業と外の人材をマッチングさせるツアーの実施

### ★地域の学びの伝承・知のたまり場・交流

#### 拠点事業

マッチングの中で生まれた学びを共有・伝承することで、受け入れ基盤の充実、人が人を呼ぶ循環の形成を図る

事業費 5629万円

## 乳幼児等の医療費給付事業

乳幼児が対象であった医療費の助成制度の対象を小学校・中学校まで拡大し安心して子育てができる環境を作る。

事業費 1112万円



# 今年度の主要

## 広島県立大崎海星高等学校 活性化支援事業

今年度で2年目となる公営塾は、地域活性化の取り組みに関する知見やノウハウを有する外部専門家や地域おこし協力隊を招へいし大崎海星高校魅力化を図り、県外募集を行い高校までは地域で学べる環境づくりに取り組み地域力の向上を図る。

事業費 1821万円



公営塾で学ぶ

## 住宅新築改築助成事業

町民の住環境の向上を図るため住宅の新築・改築を行う場合、費用の一部を助成する。それにより町民の住環境の向上と地域の内事業の活性化を図る。

事業費 1200万円

## 新規就農者育成事業

就農初期の生活支援を行い経営が軌道に乗るまでの期間、青年就農給付金を給付する。

事業費 2138万円

# わが町の予算 主なやりとり

**問** 支所庁舎の耐震診断は、職員数も含めた組織全体の総合的な計画の下で、計画的に実施するべきでは。(閑田議員)

**答** 現在、公共施設の総合管理計画を策定中であり、今回の耐震診断を計画に生かしたい。また、組織体制の見直しと併せて施設の在り方について検討したい。(総務課長)

**問** 国勢調査とは別に、町にとって必要な統計調査は町独自で行い、政策企画に生かすべきでは。(閑田議員)

**答** 大きな事業がある場合は必要なので、検討したい。(企画振興課長)

**問** 防災施設整備についても、防災計画に基づき計画的に町全体を考えるべきでは。(閑田議員)

**答** 過去の経過も含め、最終的に平成28年度で防災備蓄倉庫を整備。備品は27年

度から5カ年計画で購入する。(総務課長)

**問** 町おこし交流・情報発信等拠点整備推進事業に該当する旧商工会東野支所の建物は既に整備に着手しているが、27年度予算に計上していたか。(閑田議員)

**答** 26年3月補正で27年度の繰り越し事業としていたが、諸事情により現在整備している。(産業観光課長)

**問** 小型モビリティの利用実績は。(閑田議員)

**答** 3月から11月の土日が約8割稼働、平日はほとんどない。(産業観光課長)

**問** トライアスロンの補助金50万円はどのような算出がされたのか。(前田議員)

**答** 参加費95万円、補助金50万円の計145万円で運営するという企画書をもっている。(産業観光課長)

**問** 垂水住宅以外の団地の基金は。(信谷議員)

**答** 使用料を維持管理費と公債費に充当しているので、基金はない。(総務課長)

**問** 鳥獣飼養許可に関して、メジロは捕獲禁止となっているが。(信谷議員)

**答** すでに飼われているものについての手数料だ。(産業観光課長)

**問** 新規就農者・ＩＵターン支援はどのぐらいの規模か。(信谷議員)

**答** 国の新規就農者支援が5名だが、まず町のＩＵターン支援で就農意欲などを見極めながら、併せて実施する。(産業観光課長)

**問** 栽培漁業の新魚とは。(信谷議員)

**答** 中南部地域の漁業組合の集まりで、引き続きマダイを養殖することとなっている。(産業観光課長)

**問** 物産館の管理方法に工夫を。(信谷議員)

**答** 漁協・集落支援員・南の里などと効率的な管理ができるよう協議する。(産業観光課長)

**問** ふるさと納税の粗品に、産品の掘り起こしをするべきでは。(越田議員)

**答** 一定額以上の寄付をした方が、欲しいものを選べるような形にしたい。株主制度のように、来町時にさまざまな優遇制度を作るなど、検討したい。(町長)

**問** DV対策関係機関連絡会議の活動実績は。(越田議員)

**答** 母子自立支援員を含めた福祉課と、警察で連携して取り組んでいるが、児童虐待のほう是件数は多いので、それも含めて民生委員とも連携しながら取り組んでいる。(福祉課長)

**問** 職員の接遇研修を実施するというのが、挨拶などは出来るのが当然であり、もっと職務上必要な高度な研修を行うべきでは。(閑田議員)

**答** 私も職員時代から、接遇に関する教育を受けたことがない。出来て当然ではあるが、その基本的なことを1度きちんと学んでおくべきだろう。(町長)

**問** 有害鳥獣駆除対策費が増額になっているが、もっと抜本的にやり方を見直すべきでは。(越田議員)

**答** 県とも協議したが、地道な駆除が一番効果的であり、一斉駆除はデメリットも大きい。(産業観光課長)

**問** 老朽化した町営住宅を今後どのようにするのか。(前田議員)

**答** 大きな課題だと思っている。(町長)

**問** 労働金庫の融資制度の町内勤労者の利用実績は。(道林議員)

**答** 町の職員の利用数はわかるが、町内勤労者については把握していない。(総務課長)

**問** 火葬場の有効な活用方法について、公募した業者から提案はあったのか。(辰田議員)

**答** 葬儀を行える工夫をす

る提案があった。(保健衛生課長)

**問** 国民健康保険財政調整基金の3月末残高は。(閑田議員)

**答** 約4600万円の見過し。(保健衛生課長)

**問** 一般会計からの繰り入れ金を27年度並みにすると基金の残高不足は生じないのでは。(辰田議員)

**答** 毎年同じ額の繰り入れをするわけではない。(保健衛生課長)

**問** 介護保険料は全国でもトップクラスだが、事業を精査してもっとコンパクトにしては。(越田議員)

**答** 介護保険事業は国の制度に基づいて実施しているので、必要な事業はない。(福祉課長)

**問** 以前はなかった後期高齢者医療保険料の滞納繰越が見られるが。(閑田議員)

**答** 相続者不明などの案件が生じており、100%の収納は不可能になってきている。(税務課長)

**問** 簡易水道の本管は整備されているが、枝線は未整備だと思いが。(閑田議員)

**答** 50ミリ以下の塩ビ管はほぼ手つかずだ。更新計画を立てる必要がある。(上下水道課長)

**問** クールジェンの工事も終盤に入り人が減っていく中、使用料の見込みは。(越田議員)

**答** 工事が終わり、試運転が始まると使用料は増える。(上下水道課長)

**問** 電力自由化で、契約の見直しなどの考えは。(辰田議員)

**答** まだ考えてないが、今

後検討する必要がある。(上下水道課長)

**問** さざなみが風の影響による欠航が多い。また、新造船なのに故障が多いようだが。(閑田議員)

**答** 運航規程で、風速13メートルを超えると出港を停止している。故障は、冷却水の取水管が電食により穴が開いた。(建設課長)

**問** 船の構造上、バランスが悪いのでは。(前田議員)

**答** 改善すべく船長とも協議したが、運輸局の検査に合格しないといけないので、それも含め検討している。(建設課長)

**問** 西野干拓地の残土搬入可能量は。余裕があるうちに、次の受け入れ施設の検討を始めるべきでは。また、水路の整備はどのように考えているのか。(閑田議員)

**答** 建設残土が減少してお

り、あと10年弱は可能。次の受け入れ地については、現在総務課・建設課・企画振興課で検討中。水路は地元からの要望もあるので、改修も考えていく。(企画振興課長)

**問** 水路は審議会発足当初からの要望事項のはず。また、太陽光発電所の中に調整池が残っているが、すでに不要なはず。これらの整備は。(辰田議員)

**答** 調整池は深さが15メートルあり、周辺地に支障を来すことなど総合的に判断し、現状のまま残している。水路は予算が高い。また、軟弱地盤なので安定的な工法を選択する必要がある。(企画振興課長)

# 第1回定例会(3月議会)

## 決まった主なこと

大崎上島町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

平成28年度大崎上島町一般会計予算

平成28年度大崎上島町国民健康保険事業特別会計予算

など11特別会計予算

人権擁護委員推薦

氏名 大政 昭仁氏(再任)

大崎上島町課設置条例の一部を改正する条例

大崎上島町過疎地域自立促進計画の策定について など43議案

# 第1回臨時会(2月議会)

工事請負契約の変更

# 第2回臨時会(3月議会)

大崎上島町いじめ問題調査委員会条例の一部を改正する条例

平成27年度大崎上島町一般会計補正予算

(地域課題解決事業 5629万円、大崎海星高校魅力化支援事業 1857万円)

# 一般質問

## 町政を問う

4人の議員が5項目を質問



前田 太 議員  
まえだ ふとし

### 問 町職員の育成は

### 答 職員の自覚を促す

質問（前田議員）

今年度で多くの課長が退職される。今までの町政に対するご尽力に感謝するが、後継者の育成が充分にできているのか。

町職員も研鑽をつみ、能力向上に努めている。

また県や他自治体との人事交流で行政の質の向上も図られていると思うが、町職員が課長補佐クラスで課長の後継としての実力涵養の機会が失われているようにも思う。ポストが人を作るとはよく言われている。今後どのように町職員、特に幹部職員を育成していくのか尋ねる。

答弁（町長）

合併当初は職員数や課が多く、課長補佐・主幹もいたが、職員を減らす中、課も減り、そういうポストも減った。管理職としての勉強の場として課長補佐が必要との提案かと思うが、登竜門との位置づけが必ずしも良いわけではない。今役場の人事も年功序列ではなく登用している。

ただ、次を期待している意思表示で人材が育つ側面があるのも間違いなく、それらをふまえて配置を考えていきたい。

再質問（前田議員）

機構改革があるが、課長になる人材の不足で課の統廃合というのでは、町政の劣化を憂慮する。係長は各自の仕事、係の統括も大変であり、課全体を広い目で見るとは難しい。課長となつた時、遅滞なく業務が行えるのか。

再答弁（町長）

そのポストへ行けば人材が育つのも事実だろうと思う。係長から課長になれば、課長の仕事ができてくると思う。ただ、現実問題として全体を見ていくという自覚を促すことが必要だ。



産業観光課から地域経営課へ



かん だ たいすけ 議員  
閑田 大祐 議員

質問（閑田議員）

本町は3人以上の子どもを育てる世帯の割合が大きいように感じる。こうした世帯の少子化抑制への貢献度は大きいですが、反面、経済負担も大きい。

問

子育て支援の充実を

答

事業計画を基に総合的に推進する

子どもが3人以上いる世帯に対し、追加の子育て支援を図ってはいかがか。

域ぐるみで子育てをすることで、この基本理念を策定している。

ついでに1割程度引き下げている。

答弁（福祉課長）

本町では幼児期の学校教育、保育及び地域子ども子育て支援事業により、地

また、国の制度以外に、子育て支援手当支給事業を実施している。2つ目に、幼稚園、認定子ども園等の利用者負担に

3つ目に、4月から乳幼児医療費の支給対象を就学前から満15歳までに拡大する。事業計画に沿って事業を実施し、総合的に推進していきたい。

問

施政方針の具体的な説明を

答

実施にあたっては議会とも充分協議する



のぶたに とし き 議員  
信谷 俊樹 議員

質問（信谷議員）

施政方針の中から具体的に伺う。  
① 町民の理解と協力を求めているが、地元

説明会は実施していない。いつ、どのような形で実施するのか。

② 国は過去最大規模の予算を編成している。広島県

も積極的な予算編成だが、本町は前年度比0・6%減となっている。町全体を活性化するために補正などを

実施するつもりはあるのか。

③ 公営塾運営事業は高校だけでなく、中学校や小学校まで拡大実施したほうが、税の公平性が保たれるのでは。

は。

④ 住宅新築・改築工事助成金を改築と新築に分離し、新築の場合の助成を増額して、町民の住環境向上と町

内経済の活性化を図るべき



では。

⑤新規就農者育成交付金事業は経営が軌道に乗るまでとしているが、何年ぐらいを目途にしているのか。

⑥水産振興対策事業で、町外での販路拡大をするというが、事業主体は。

⑦認知症地域支援、ケア向上事業の支援体制は。

⑧町有財産適正化、遊休財産の有効活用とあるが、財産利活用検討委員会も開催せずどのように適正管理するのか。

⑨さまざまな事業を展開しているが、懸念されるところは。

答弁

①（副町長）

実施方法や日程の調整に時間がかかり、未だ実現できていない。多くの住民の方に参加いただきたいので、暖かくなる4月下旬頃か

らで調整している。

②（総務課長）

予算が0・6%減となった主な要因は、公債費と普通建設事業費の減だが、建設事業費は、前年度は金額の大きい木江屋内運動場があった。

これを除く事業費では約2億7千万円の増となっている。

緊急かつ必要な事業については、補正予算による追加も検討する。

③（町長）

小中学生向けには町内にも民間の学習塾がある。また、かなりの人材を要するので、人材確保の面からも小中学生に範囲を広げるのは困難だ。



公営塾「神峰学舎」

④（企画振興課長）

昨年度も当初見込みをはるかに超えた申し込みがあった。

この助成事業が町民に期待されていると認識はしているが、昨年度始まったばかりの事業でもあり、不公平感が生じる恐れがある。

⑦（福祉課長）

町は27年度に認知症初期集中支援チームを立ち上げた。

28年度は、認知症に対する正しい理解を広めるための講演会、町外から専門医を招いて相談日を設ける。

認知症カフェの開設、多職種協働研修会の実施による認知症者・家族の支援などを実施する。

⑧（副町長）

元白水教員住宅跡地の利活用について検討委員会を開催したい。

⑨（町長）

随時、効果の有無など検証し、見直しをしながら、効果のある施策を展開していく。

新築・改築の補助金は継続されます



⑤（産業観光課長）

新規就農者育成交付金は、5年間を目途にしている。

⑥（産業観光課長）

町外の販路拡大については、事業者が主体となり、町はそれを支援する考えだ。

お知らせ

○本庁・各支所ロビーのテレビまたはインターネットで議会生中継がご覧いただけます。

※インターネットをご利用の場合はホームページの注目記事

「〇〇議会ただいま生放送中」をクリックしていただければご覧いただけます。

※録画の視聴は町議会メニューの議会録画中継配信でご覧いただけます。



辰田 真司 議員

問 施政方針について

答 人材育成を

質問（辰田議員）

平成28年度当初予算の基本方針を述べられたが、事業の羅列でこれを絶対にやりたいという意気込みが感じられない。

- 一、多様な人材を育てる教育の島づくり
  - 二、新たな人の流れで住んでよかったと実感できるまちづくり
  - 三、地域資源を生かして仕事と産業を育てるまちづくり
  - 四、癒しと元気な地域で安心して暮らすまちづくり
- 以上4点を挙げているが、具体的にどのように進められるのか。

答弁（町長）

地方創生の総合計画で定めたように、教育の町・人材をしっかりと育て輩出する町を第一に頑張りたい。

広島県がグローバルリーダー中高一貫校を設置するということが要望を出している。これもハードルは高いと思うが、しっかりと可能性を追求してまいりたい。さらに、町には県立大崎海星高校・広島商船高専どちらも今後の生き残りをお

けて町と一緒に協力をし取組んでまいりたい。



入学式前に青春坂を上る新入生

問 本土架橋への取組みは

答 協議中

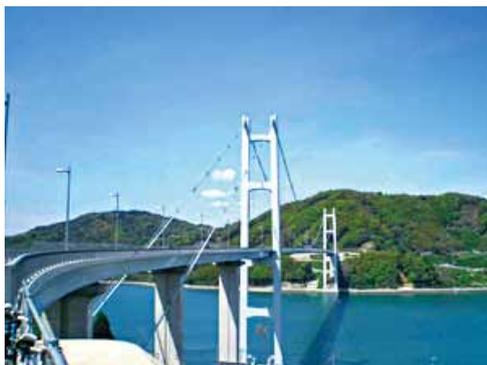
質問（辰田議員）

本土側に向けて大崎上島架橋促進協議会及び大崎上島架橋促進期成同盟会が活動し、毎年要望活動・総会を開催し、活動報告がなされていた。

しかし、ここ数年間活動の実態がなされていないと思うが、この協議会、同盟会を町長はどのように思い、今後どのように展開されるのか。以前質問以降に何か動きがあったのか。

答弁（町長）

平成27年7月6日に東広島市・竹原市・本町で会議を開き協議会・同盟会は整理して出直すという方向性を出している。



安芸灘橋

# 認定こども園 ひかりえんの紹介



議会は、がんばる島の子ども達を応援します。  
『このページは、ひかりえんより頂いた原稿・写真を  
掲載しています。』

保育所ひかり園は、平成27年4月1日より、認定こども園ひかりえんに施設移行いたしました。今年で、幼保連携型認定こども園として、2年目となります。

幼保連携型認定こども園とは、幼稚園と保育所が一体化した施設です。3歳以上の子どもさんについては、おおむね午前中4時間を教育の時間として、午後からは保育の時間と分けて最大で11時間、子どもさんをお預かりしております。また、3歳未満の子どもさんは、今までの保育所と同じように、最大11時間、乳幼児の保育を行っております。

3歳以上の子どもさんは、保護者が働いている、いないに関わらず利用でき、保護者の就労状況が変化した場合でも、通い慣れた園を継続して利用できることが大きな特長です。また、幼保連携型認定こども園には子育て支援の場が用意されており、園に通っていない子どもさんや保護者も、子育て相談や親子の交流の場への参加など利用をすることができます。

## ●菜園活動・お茶室保育

認定こども園ひかりえんでは、特に健康的な成長をうながすために、菜園活動から食育について学び、教育的観点から茶道を通して、社会生活における、好ましい習慣や態度を身につけることを学び、これらを重点的に取り組んでいます。

## ●認定こども園ひかりえんとして目指す教育及び保育の目標・理念

子どもが現在最もよく生き、望ましい未来を創り出す力の基礎を培うことを目標とし、家庭との連携を図りながら、一貫した教育及び保育を実施する。

## ●認定こども園ひかりえんは、次のような子どもの姿をめざします。

☆心身共に健康でしなやかな子ども

☆よく見、よく聞き、よく学び、よく考え、創造し、自ら行動する子ども

☆ともだちや自然を大切にし、慈しみの心にあふれた子ども



# 総務福祉文教常任委員会報告

委員長：越田賢一 副委員長：関田大祐  
委員：信谷俊樹 尾尻康二  
道林清隆

平成27年12月定例会以降に開催した委員会での主要な調査、協議事項及び継続審議した内容と事業内容の審議を報告します。

## ○大崎上島町課設置条例の一部を改正する条例

内容として大崎上島町課の再編『10課1事務局23係↓8課1事務局22係』とするもので、目的として『大崎上島町第2次長期総合計

画』の早期実現に向け、簡素で効率的な行政経営と適材適所の人事配置を念頭に、組織のミッシュン性を高め重要施策の一層の推進等を図る為の組織体制を整備するものです。しかし機構改革による影響力も大きく、住民サービスの低下や事業の遅れなどのリスク回避を徹底するよう提言しました。

## ○大崎上島町国民健康保険の改正

3町合併後、変動のなかった国民健康保険税の税率を引き上げる改正です。国民健康保険特別会計では毎年、数千万円の赤字であり、この赤字分については国保財政調整基金を取り崩しながら運営していましたが基金の枯渇を避け、今後の運営に支障をきたさぬようにするためです。

## ○マイナンバー高齢者対象出前講座

わかりにくく犯罪等に巻きこまれない為に、マイナンバーの説明を集会所など

に担当者が向いて説明する。平成28年3月8日現在、町内19ヶ所で開催。



出前講座

## ○年金生活者等支援臨時福祉給付金

社会保障・税一体改革の一環として平成29年度から実施される年金生活者支援給付金の前倒しのな位置づけになることを踏まえ、また、平成28年度前半の個人消費の下支えにも資するよう、低所得の高齢者等を対象に実施します。

## ○平成27年度補正予算及び、平成28年度当初予算

予算の説明を受け委員会で審議しました。

## ○意見書

委員会では1件の意見書を提出しました。ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を求める意見書

# 産業建設常任委員会報告

委員長：前田 太 副委員長：浜田幸造  
委員：辰田真司 渡辺年範  
時田篤雄 浜田明利

平成27年12月定例会以降の委員会報告をします。

3月定例会では町の当初予算が議案となるために各課から来年度の予算、主要事業の説明をうけて審議をしました。また機構改革による所管の課の変更があり

ました。

## ○連携中枢都市圏形成

町は3月30日に広島市と広島広域都市圏の連携協約を結びました。広島市を中核に県内9市8町、山口県2市5町で形成されます。連携中枢都市圏は地方創生の一環で総務省が打ち出した新制度です。

地方の人口減少を食い止めるため、圏域全体でヒト・モノ・カネ・情報の循環を基調とするローカル経済圏を構築するもので、圏域経済の活性化と本町の自律的で持続的な発展を図るものです。

町では交流・移住・定住に関わる広域連携事業や一時預かり保育事業の広域利用など18の事業に参画します。

## ○過疎地域自立促進計画

過疎により生産機能や生活環境整備など地域の活力が低下している地域の活性化を図る過疎地域自立促進特別措置法が平成32年度まで

で延長されました。この法では過疎地域への財政上の特別措置が規定されていません。

このため町では大崎上島町過疎地域自立促進計画を策定しました。

○大串キャンプ場施設改修  
シャワー棟を新設しましたが、当初想定していた利用法と異なり、脱衣場は砂や水があふれ、シャワー室も排水が詰まるなどの問題が発生しました。これを解消するため直接シャワー室に出入りできるドアの設置や排水対策を施します。



シャワー棟

○排水機場整備事業

広田排水機場の設備整備・更新が行われます。老朽化している設備を整備更新し、設備の長命化を図るものです。



広田排水機場

○町道改良事業

明石原田線を離合可能に改良、沖浦本郷線に落石対策をします。

これらの集落と集落を結ぶ1級町道を改良整備し、住民の利便性を図り安全安心な町づくりに寄与する目的です。

自治功労者等表彰

全国町村議会議長会表彰

○議会議員15年以上

蒔田 篤雄 議員

表彰基準日

平成28年2月4日

広島県町村議会議長会表彰

○議会議員20年以上

辰田 真司 議員

表彰基準日

平成28年1月1日



広島県議会議長会による第33回議会議員表彰コンクール  
佳作



議員研修等報告

平成28年2月19日広島県議会議員表彰式がおこなわれ、研修会も開催された。

芳野政明氏の「広報紙クリニック」と題した研修があり、広島県内の他町の広報紙について解説（評価・指摘）があった。表彰されたことを今後の議会議報紙作成に生かしたい。

また、時事通信仙台支社長 山田蕙資氏による講演があった。



# 追跡 あれからどうなった

(平成25年12月定例会一般質問から)

質問

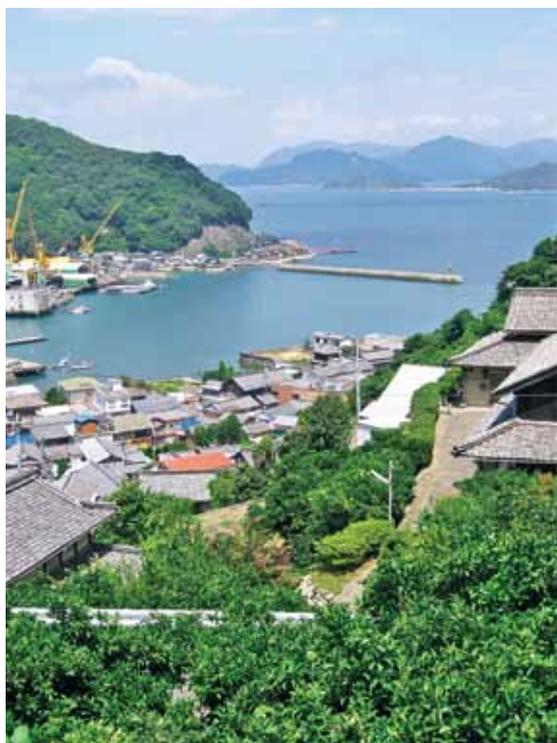
各地区で生の声をきくべきでは

回答

今年度中に始めたい

その後の経過

行政懇談会は、平成28年4月下旬から木江地区(明石)から実施していく。



町の活性化のために！

## 編集後記



春爛漫百花繚乱の季節を迎えました。

三月定例会では新年度百十億円の予算が決まりました。

自主財源の少ない中でのやりくりとなりました。

この春町内の小学校では39人が卒業し、新入生35人が入学しました。

中学校では40人が巣立ち40人が希望に燃えて入学し元気に新年度をスタートしました。

人数は少なくとも賑わいのある学校は町民みんなの願いであります。

この季節になると、進学・就職と大崎上島を離れる人も多くいます。どんな街に進もうとも「ふるさと」大崎上島を想いながら活躍してほしいと願うものです。

そして私どもは、大崎上島から離れた人がいつ

でも帰って来られる町づくりに力を注ぎます。

(T・S)

議会広報委員

委員長 閑田大祐

副委員長 道林清隆

委員 辰田真司

越田賢一

前田 太

浜田幸造



議会傍聴を試みませんか。

次回の定例会は**6月**です

日程は町内放送・ホームページでお知らせします。

## 大崎上島町議会

☎ (0846) 65-3130 (直通)

FAX (0846) 65-3117

〒725-0231 広島県豊田郡大崎上島町東野6625-1

URL: <http://www.town.osakikamijima.hiroshima.jp/>